

角膜炎

短頭種は目の露出部分が多いので要注意！

【症状】目ヤニ、多涙、眼をショボショボさせる

角膜（黒眼の表面の透明な部分）の一部が白くなったり、それに伴い結膜（まぶたの裏側や白目の表面）が充血することもあります。眼脂（目ヤニ）がたくさん出て、痛そうに眼をショボショボさせる、涙が多くなるなどの症状がでます。角膜が融けて角膜潰瘍になり、穿孔することもあります。慢性化すると、色素沈着や血管の新生などが起こり、視力が障害されます。



＜角膜の白濁と結膜の充血＞

【原因】外傷、涙の不足、感染、など

- ① 傷…目をこする、まつ毛や体毛が目に入る、シャンプーが目に入る、遊んでいて木の枝や他の犬の歯や足があたるなど。眼の大きい品種や短頭種は傷つきやすいです。
- ② 涙が少ない…涙は本来、角膜の上を常に覆っていて、感染や乾燥から角膜を守り、また酸素を供給するなどして、健康で透明な角膜を維持する役割をはたしています。この涙が少ないと、角膜の乾燥・感染・酸素の低下などが起こり、角膜炎になります。短頭種の一部では、眼の露出面積や表面のカーブが大きい（出っ張っている）ため、もともと角膜全体に涙が行き渡りにくく、繰り返し角膜炎を起こすことがあるので、注意が必要です。



＜角膜潰瘍…角膜が窪んでいます＞

- ③ イヌ伝染性肝炎などのウイルスや細菌による全身性の感染症…

①②とは異なり、目の内部から炎症が起こります。

【診断】傷の有無、炎症の深さ、涙量

- ・ 染色液を使い、角膜損傷部分の位置や深さを調べます。
- ・ 涙の量を測定します。
- ・ 原因が特定できない場合、血液検査により、内分泌や免疫などに異常がないか調べます。



＜乾燥性角膜炎…ねばねばした目ヤニが特徴的＞

【治療】点眼 他

- ① 外傷…角膜を保護し、感染症を防ぐため、症状に合わせた点眼薬を使用し、手術を適用することもあります。
- ② 涙の分泌が少ない場合には、涙の分泌を促進させたり補ったりする点眼薬を用います。
- ③ 全身性の疾患には、原因となる疾患の治療と眼の治療を並行して行います。

【予後】

症状が落ち着いても、点眼をやめると再発する場合がありますので、獣医師の指示に従ってください。潰瘍のあとは、治癒しても白く残ることが多くみられます。この場合病気は治っていますが、販売に支障が出ます。涙量が少なかったり、表面全体に行き渡りにくい目の形の場合、涙を補う点眼によるコントロールが生涯必要になることもあります。

☎03-5646-6894 FAX 03-5646-5822

URL <http://www.ahb.jpn.com>

<http://www.bioplus.jp>

AHB

〒135-0042 東京都江東区木場3-7-11
株式会社 AHB

* 具体的にお困りの方はご遠慮なくご相談ください。

